

心と波動

今回の Will のテーマは「知識」です。人生の中で生きていく上で、知識は大事です。お釈迦様は、知識や智慧のないことを「無明」と言いました。明るさが無い、ということなのです。またお釈迦さまは、人生の不幸には二つのことがあると言われました。一つ目は無知であること。つまり知ること、知るべきことを知らないことは、不幸だということになるのです。勉強しないと、正しい知識が得られません。また、幅広い知識がないと世の中のことを公平に見られません。正しい見解を持たないと、もの見方が歪みます。特定の思想や考えに浸かってしまうと、心が歪みます。学ぶ心がないと、良き友や人間関係を作れません。人間は、だれでも向上心があります。ですから、自分の能力や知識の幅が広がることで喜びを感じ、満足感を得ます。知識を実践し智慧になったとき、その知識は体に、そして魂に刻まれ本物になっていきます。知ることを知り、知識の幅が広がることは、無限の喜びです。

ではお釈迦様の言われた、二つ目の不幸は何か。それは、悪い友を持つことなのです。世間一般に言う「悪友」とは違います。より深く公正な目で物事を正しく見、知り得るには、先輩、後輩を問わず、良き友人の存在が必要です。そして、良き人の輪の中で健全に心は育ち豊かになっていきます。お釈迦様は言いました。良き友を持つことは、一生の財産である。良き友とは、一緒に前を進んでくれる人です。共に人生を真面目に考え、常に人格の向上、そして心より高くすることを求め、その先に真理追求がある姿の人間関係を指します。その様な友を持つ人は幸せです。

またお釈迦様は「人生の良き師を求めよ」とも言っております。良き師、良き友を得ることは、人間を豊かに向上させるための最短の近道です。その人々と関わることで、お互いに魂そのものが進化していくのです。しかし、その逆だったらどうなるでしょう。人間関係で、悪意をもって陥れる人が身近にいると常に足を引っ張られるどころか、悪の道に引きずられてしまいます。向上心は無く、常に下へ下へと心も下に下がってしまいます。今大きく社会問題になっている「いじめ」というのは、その典型です。この場合の悪い友とは、常にまとわりついて足を引っ張ったり、邪魔をする人を指します。言い方を変えれば、身近に悪い人がいて関わりを持つことは、大きな人生の損失となります。

私たちは一人の例外なくこの世に生まれてくるときに、二つのテーマに基づいて人生を送ることを目的としています。その一つは、自らの心の成長、魂の向上です。➤



穂苜秀郎（ほかりひでお） SE研究所所長

1957年松本市生まれ、長野市在住。
幼少より目に見えない世界、不思議な世界に興味があり、やがて高橋信次氏の著書に出会い、あるべき人間の姿の真髄と、目に見えない世界を読み解く世界に触れて大きな衝撃を受ける。

以来、心の正しさと、波動を高める探求を続ける中でダウジングによる波動測定、波動改善技術を確立し、2005年にSE研究所を設立、現在に至る。

上越を始め長野、東京、全国各地で「心と波動の勉強会」を開講。また個人相談を通じ、多くの人々を悩みの解決へと導く。穏やかに愛情溢れる波動測定、改善技術には定評がある。

➤これはすべての人にあるので、嬉しいことがあったり、良いことをすると心が喜びます。また、精神性の高い人や書物、芸術などに触れると心が小刻みにふるえます。それは元々心の奥底に入っている、魂の向上という琴線に振れ、共鳴するからです。

逆に、その方向と逆の心を下に下げる働きがある、またいやなものを見たときには、不快感や嫌悪感などを持ちます。社会的にはいけないこと、反社会的行為、心なきいたずら、犯罪など・・・。それらのことは、私たちの心を暗くさせ、また憂鬱にさせたりします。本来の目指す心の働きに対して、大きな抵抗感となるのです。

心の乱れも慢性化すると、本来の心をもすっかり忘れ、間違った方向に進む人も後を絶ちません。そして残念なことに、多くの方は下に足を引っ張る人の方に影響させられてしまうのです。ですから尚のこと、積極的に良き師、良き友を求め、その人々と良き人の輪を作ることです。輪は和に繋がります。和は調和です。

では、もう一つの目的、それはこの地上のユートピア建設です。まず私たち一人ひとりの心を調和させながら、私たちが生きている地球環境をより美しく、調和させなくてはならないのです。それは私たちに課せられた役割でもあるのです。紛争や暴動の起こるところには、人々は争い、主義主張の対立で人々の心は分断され、周辺の店のガラスは割られ、破壊され略奪される姿があります。残念なことに世界を見渡しても、その様な場所は無数にあります。そこには知識も教養も、そして良い人間関係もありません。知識を広く深く得て心を豊かにし、そして良き友を作ることは、人類の平和にも繋がっていくのです。

SE 研究所 長野市吉田 2-33-33
TEL 026-259-5567 FAX 026-403-2201

TEL 070-6665-0954 (穂苜秀郎)
info@selabo.jp <http://www.selabo.jp>